

A Bible Study

神のおどろくべき み光の中へ

Into His Marvelous Light



カーク・ベイツ、アル・ガッサン、ゲイレン・ウォルターズ 著

By Kirk Bates, Al Gossan Jr. and Galen Walters

始める前に

この聖書勉強は救いの計画を簡単に説明し、ひとつの短い学びにまとめたものです。誰かが教えるかたちをとってもいいですし、一人で学ぶことも出来ます。また、この学びを二つに分けて、30分ごとの二部構成にして学ぶことも出来ます。もし分けるならば「福音の中へ」の後が良いでしょう。

この聖書勉強をはじめる前に、聖書とペンまたは鉛筆を用意してください。聖書のみことばを読んで問題の答えを記入してください。学びのあとに自分で勉強出来るように、問題の答えについての説明や、みことばがこの聖書勉強の末尾に記されています。

ダビデ王はこう祈っています。「わたしの目を開いて、あなたのおきてのうちのくすしきことを見させてください。」わたしたちも神がわたしたちの理解力を深めてくださるよう祈りましょう。神のおどろくべきみ光に招き入れられるとともに、神の祝福があなたの上にありますように。

「・・・それによって、暗闇からおどろくべきみ光に招き入れて下さったかたのみわざを、あなたがたが語り伝えるためである。」 ペテロの第一の手紙 2章9節

はじめに

暗い部屋から日の光の中に歩いていくと、光は目をくらませます。そして、目が光に慣れてくると、周りをもっとよく見え、景色を楽しむことが出来ます。このように、わたしたちがみことばの光なしに物事を見ると、真実の輝きがむしろ痛いことがあります。しかし、わたしたちの靈的視力が調整されてくると、「光の中を歩く」ことを楽しむことが出来るようになります。

この聖書勉強は、わたしたちがみことばの驚くべきみ光の中に入って行くことが出来るようになるためにつくられました。わたしたちはこれからみことばの中を旅します。イエスや弟子たちが生きていた頃に生き、救いの計画の教えを自分自身が今実際に聞いていると想像してみてください。わたしたちは「真理のことばを正しく教え」（テモテへの第二の手紙2章15節）、あなたと共にみことばの旅をします。この聖書勉強では、新約聖書の三つの部分を年代順に分けて見ていきます。その三つの部分とは以下の通りです。

1. 福音：イエス・キリストが語った言葉とその働き
2. 使徒行伝：使徒たちの行いと教え
3. 手紙：使徒たちがはじめた教会にあてて書かれた手紙

わたしたちは「聖書のみことばは神が人に書かせたものであり、人間が『自分勝手に解釈すべきでないこと』（ペテロの第二の手紙1章20節－21節）」を信じています。ですから、みことばそのものから取り除くことも、それに付け加えることもせず、みことばをそのままみなさんに紹介するように努めました(申命記4章2節、箴言30章5－6節)。わたしたちの目的は、あなたが今神にあって持っている個人的な交わりをなくすことではありません。またわたしたちの個人的な考えや宗教の信心を押しつけようということでもありません。わたしたちはただ、みことばをそれが書かれているとおりに分ち合いたいのです。

わたしたちはみな、自分の救いに自信をもつため、聖書のみが真の権威を持つ書であると確信しなければいけません。なぜなら、終わりのときにわたしたちを裁くのは人間の書いた聖伝ではなく、神のことばであるからです。

聖書のみことばの旅をはじめるとともに、テモテへの第二の手紙3章15－16節を読みましょう。

福音の中へ

聖書の該当する箇所を読んで、下線の部分にあてはまることばを入れていってください。

ヨハネによる福音書 1章 1 節－5 節、 14 節

はじめに_____は神であって、肉体を持つものとなった。イエス・キリストは神の「生きていることば」です。

ヨハネによる福音書 1章 11 節－13 節

わたしたちが彼を信じ、そして受け入れるなら、イエスはわたしたちに_____の子となる力を、新たな誕生を通して与える。イエスはある晩、この新しい誕生について、ユダヤ人の指導者のひとりに話しました。

ヨハネによる福音書 3章 1 節－8 節

イエスはニコデモに、だれでも神の国を見たり、そこに入ったりしようと思うものは、_____と_____とから新しく生まれなければならないと言った。

ヨハネによる福音書 3章 16 節－21 節

また、イエスはニコデモに、だれでも御子を_____者は永遠の命を得ると言った。これはイエスが信じることと新しく生まれることという二つの違った条件を、救いに不可

欠なものとしてお示しになったということです。この二つの必須条件はお互いに否定しあうものではありません。次の聖句は「靈にあって生まれることが信じるということにどう関係しているか」を説明しています。

ヨハネによる福音書7章38節－39節

ここでわたしたちはイエスを信じると（みことばが言っている通りに） を受けるとことが分ります。靈において信じるということはただ単に自分の考えを変えるということではないことが分ります。靈において信じるということは、靈における経験をあなたに与えます。

ヨハネによる福音書12章35節－36、42節－43節

イエスの時代と同じく、こんにちでもイエスを信じる人はたくさんいます。しかしその中のある者たちは他の人々に言われたり、されたりすること恐れてイエスを しません。

ヨハネによる福音書12章44節－48節 *1

イエスは人々が恐れるのを見ていつかイエスの がわたしたちを裁くから、それを拒否しないように、と注意しました。わたしたちは人が何と言おうとも、人々に何をされようとも、神のことばを信じてそれに従うべきです。

ヨハネによる福音書 17章 17節－20節 *2

イエスは十字架にかけられる前、弟子たちのために祈り、神のことは_____である、と言いました。イエスはわたしたちのためにも祈りました。そして弟子たちのことばを通してイエスを信じる人々のために祈りました。

弟子たちのことばがどのようなものであったかを知るために、イエスが彼らに何を教えなさいと言ったかを見てみましょう。ルカによる福音書 24章 45節－49節 *3に見られる、イエスが弟子たちに与えたすばらしい宣教使命は、イエスの死、葬り、復活の直後に与えられました。そしてそれはイエスの昇天の直前のことでした。

「そこでイエスは、聖書を悟らせるために彼らの心を開いて言われた、「こう、しるしてある。キリストは苦しみを受けて、三日目に死人の中からよみがえる。そして、その名によって罪のゆるしを得させる悔改めが、エルサレムからはじまって、もろもろの国民に宣べ伝えられる。あなたがたは、これらの事の証人である。見よ、わたしの父が約束されたものを、あなたがたに贈る。だから、上から力を授けられるまでは、あなたがたは都にとどまっていなさい」

弟子たちはイエスが宣言するように命じたメッセージを教えたのでしょうか。

父の約束はどのように成し遂げられたのでしょうか。

それでは、みことばの旅を続けて、何が弟子たちによって教えられ、エルサレムで何が起ったのかを見ていきましょう。

使徒行伝の中へ

使徒行伝 1 章 3 節 - 5 節

使徒行伝の中に入ると、わたしたちは父の約束は _____ のバプテスマであることが分ります。

使徒行伝 2 章 1 節 - 17 節

使徒たちが他の人々と共にエルサレムにいたとき、彼らは聖霊を受け、よろこびに満たされ、御霊が語らせるま^{みたま}まに他国の _____ で語りだしました。彼らが異言で語るのを聞いていた、いろいろな国から集まった人々はおどろいて、「これはいったいどういうわけなのだろう。」と言いました。そこでペテロは人々に聖霊の約束について説明し、キリストと、神の「救いの計画」について教えはじめました。

使徒行伝2章38節－39節 *4

ペテロの言葉を聞いた人々は、イエス・キリストが自分たちの主であり、救いぬしであることに気づき、自分たちの罪を悔いてペテロと他の弟子たちに「自分たちはどうしたらいいでしょう」と聞きました。ペテロは、ルカによる福音書24章45-49節でイエスが「宣べ伝えなさい」と言ったメッセージを語り、彼らに答えました。

それでは、ここでペテロが38節で言っている「救いの計画の三つの要素」について考えてみてください。

1. 悔いあらためること
2. 罪の許しを得るための「イエスの名による」バプテスマ(洗礼)を受けること
3. 聖霊のたまものを受けること

注) 使徒行伝2章38節では、イエスがヨハネによる福音書3章5節で話した、神の国に入るために必要な二つの「新しい誕生」について語られています。ひとつは「水による誕生」＝イエス・キリストの名によるバプテスマ(洗礼)を受けることであり、そしてもうひとつは「霊による誕生」＝聖霊に満たされることです。

では、イエスがその弟子たちに語ったことばが使徒行伝の中で語り続けられるとともに、人々が水と霊によって新しく生まれた数々の例について、いくつか見ていきましょう。

以下の文について、正しいものを○で囲んでください。

使徒行伝8章でピリポがサマリアの人々に教えたこと

注) ある人々は、人がよろこびを経験したとき、またはイエスを信じたとき、あるいはバプテスマ(洗礼)を受けたときに聖霊を自然に受けると言います。しかし、聖霊を受けることについて聖書は何と言っているのでしょうか。

使徒行伝8章5節－8節

人々は喜びましたか はい いいえ

使徒行伝8章12節

人々はイエス・キリストを信じましたか はい いいえ

使徒行伝8章14節－17節 *5

人々はイエスの名によってバプテスマ(洗礼)を受けていましたか

はい いいえ

人々は聖霊を洗礼とは別に、明確な経験として受けましたか
はい いいえ

使徒行伝 10章でペテロが異邦人に教えたこと

注) ある人々は、信心深ければ十分だとか、異言をともなう聖霊のバプテスマはペンテコステの日にだけ起ったのだと言います。もし、聖書がそうであると言っているならばそれは正しいです。しかし、みことばがこのことをコルネリオの経験を通して真実でないと言っているならば、このような考えは正しくありません。

使徒行伝 10章 1節－2節

コルネリオは信心深い人でしたか はい いいえ

使徒行伝 10章 5節－6節 *6

神はコルネリオにそれ以上のことを求めましたか
はい いいえ

使徒行伝 10章 44節－45節

彼らはペンテコステの後に聖霊を受け、異言を語りましたか
はい いいえ

使徒行伝 10章 47節 - 48節

彼らはイエスの名によってバプテスマ(洗礼)を受けなければ
けませんでしたか はい いいえ

使徒行伝 19章でパウロがヨハネの弟子たちに教えたこと

注) イエスを信じる人々の多くには、彼らに約束された聖霊について、聞いたことのない者たちもいます。また、ある人々はバプテスマ(洗礼)を受ける必要も、また正しい方法で受けなおす必要もない、と言います。(もしあなたがバプテスマのヨハネによる洗礼を受けていたとするなら、別の方法でもう一度洗礼を受けなおす必要があると思いますか。)そして、バプテスマを受けるときには何と言って施してもかまわない、というならば、その人にとってバプテスマの方法は重要ではありません。しかし、聖書がそれは重要なことであると言うなら、あなたはどうしますか。

使徒行伝 19章 1-2節

彼らは信者でしたが、聖霊について聞いたことや、聖霊を受けたことがありましたか。 はい いいえ

使徒行伝 19章 3-5節 *7

バプテスマのヨハネにより洗礼を受けた人々はイエスの名によって洗礼を受けなおさなければいけませんでしたか。

はい いいえ

使徒行伝 19章 6章

聖霊を受けるときには、異言を語ることがはじめのしるしとして伴いましたか。 はい いいえ

わたしたちは、イエスの弟子たちが以下のような救いのメッセージを語ったことに気づきます。

1. キリストの人生と死、葬り、復活
2. 神に対する悔いあらためとイエス・キリストを信じる
こと
3. イエスの名により水に全身を沈められるバプテスマ(洗礼)を受けべきであること
4. はじめのしるしとして異言を語るといふ聖霊のたまものを受けると

それでは次に、弟子たちが使徒行伝で宣べ伝えた救いのメッセージについて、彼らが何と言っていたのか見ていきましょう。それについては弟子たちがイエスを信じて改心した者たちに、どんな手紙を送っていたのかを読めば分ります。

手紙の中へ

弟子たちの手紙を読むと、彼らが救いの福音（良い知らせ）をいかに重要なものとしていたかが分ります。それは弟子たちが神のことばに従わない者たちを裁いていたからではなく、彼らはイエスが「宣べ伝えよ」と言ったそのことばがすべての者を裁く時が来ることを知っていたからなのです。

ペテロは何と言ったか

「あなたがたは、真理に従うことによって、たましいをきよめ、・・・あなたがたが新たに生れたのは、・・・神のみことば変ることのない生ける御言によったのである。・・・これが、あなたがたに宣べ伝えられた御言葉である。」（ペテロの第一の手紙1章22節-25節）

神のことばに従うことは、わたしたちの魂をきよめます

ペテロはひとつの質問をしました：

「神の福音に従わない人々の行く末は、どんなであろうか。」（ペテロの第一の手紙4章17節-18節）

パウロはこう答えています：

「それは、主イエスが炎の中で力ある天使たちを率いて天から現れる時に実現する。その時、主は神を認めない者たちや、わたしたちの主イエスの福音に聞き従わない者たちに報復し、そして、彼らは主のみ顔とその力の栄光から退けられて、永遠の滅びに至る刑罰を受けるであろう。」

(テサロニケ人への第二の手紙 1章7節－9節)

**福音に従うことはあなたの永遠を左右するほど、
非常に重要なことなのです**

パウロは何と言ったか

「あなたがたがこんなにも早く、あなたがたをキリストの恵みの内へお招きになったかたから離れて、違った福音に落ちていくことが、わたしには不思議でならない。それは福音というべきものではなく、ただ、ある種の人々があなたがたをかき乱し、キリストの福音を曲げようとしているだけのことである。しかし、たといわたしたちであろうと、天からの御使であろうと、わたしたちが宣べ伝えた福音に反することをあなたがたに宣べ伝えるなら、その人はのろむべきである。わたしたちが前に言っておいたように、今わたしは重ねて言う。もしある人が、あなたがたの受け

いれた福音に反することを宣べ伝えているなら、その人はのろわるべきである。

(ガラテヤ人への手紙1章6節-9節)

福音はたったひとつしかありません！

ヤコブは何と言ったか

「だから、すべての汚れや、はなはだしい悪を捨て去って、心に植えつけられている^{みことば}御言を、すなおに受け入れなさい。^{みことば}御言には、あなたがたのたましいを救う力がある。そして、^{みことば}御言を行う人になりなさい。おのれを欺いて、ただ聞くだけの者となつてはいけない。おおよそ^{みことば}御言を聞くだけで行わない人は、ちょうど、自分の生れつきの顔を鏡に映して見る人のようである。彼は自分を映して見てそこから立ち去ると、そのとたんに、自分の姿がどんなであったかを忘れてしまう。」

(ヤコブの手紙1章21節-24節)

神のことばは魂を救うことができます！

もしわたしたちが「みことばの鏡」をのぞくときに、自分のしなければならぬことを見るのなら、それをすぐに行ないなさい、とヤコブは言っています。わたしたちは自分がすでに聞いたことについてどうするべきなのか、考えてみましょう。

おわりに

神のことばが真理であり、終わりのときにわたしたちを裁くと信じますか？

イエス・キリストが神であり、救い主であると信じますか？

悔い改めをし、罪に背を向け、自分の人生を神にささげることが必要だと信じますか？

イエス・キリストの名によるバプテスマ(洗礼)を受けることが聖書が教えるバプテスマの方法だと信じますか？

聖霊のバプテスマは今でもあなたのためにあり、聖書の時代に人々が聖霊を受けたときにそうだったように、あなたが聖霊を受けるときにも異言を語ると信じますか？

これらのことを信じるならば、神があなたのために用意しておられるものをすべて経験することが出来るよう、今ここで祈り、神に求めましょう！

質問に関する補足的聖句

1) マタイによる福音書7章13節-24節

神は、にせ預言者たちに注意し、みことばをただ聞くだけでなく、行なう者となることの重要性について言った。

2) マタイによる福音書16章15節-19節

ペテロはイエス・キリストが誰であるかを啓示したので、天国の鍵を渡された。

3) 「すばらしい使命」についての他の聖句

マタイによる福音書28章18節-20節に書かれているバプテスマ(洗礼)に用いるようイエスが命じた「名前」はひとつだけであることが分ります。このことは、単数形、複数形のはっきりと分る言語を使う国の聖書を見ると明らかです。弟子たちが、ここに記されている名称(父、子、聖霊)ではなく、イエスの名によってのみ洗礼を施したことは、この命令に従うことでした。(使徒行伝4章12節を見てみましょう。)

4) マタイによる福音書16章15節-19節

「天国の鍵」を渡されたペテロは、このときはじめて天国のドアを開けるためにその鍵を使い、救いについての最初のメッセージを語りました。

5) 使徒行伝8章35節-39節

エチオピアの宦官が水でバプテスマを受けさせてくれるよう頼んだところを見ると、おそらくピリポは宦官にイエスについて語ったとき、バプテスマについても話したのでしょう。ギリシャ語で「バプテスマ」は「バプト」といい、その意味は「液体で完全におおう、液体につける」です。（ローマ人への手紙6章3節-4節も読んでみましょう。）

6) 使徒行伝10章34節-43節

ペテロはイエス・キリストの死、葬り、復活とともに、イエスの人生とイエスがわたしたちの主であるということについても教えた

7) ペテロへの第一の手紙3章20節-21節

ペテロによると、バプテスマ(洗礼)は救いの計画の中でも重要な要素である。

新約聖書の福音書、使徒行伝、そして使徒たちの手紙をさらに詳しく読むことをお勧めします。そして「神のおどろくべきみ光の中へ」とさらに深く歩き続けましょう。